

1989年7月20日(木)～8月30日(水)

野鳥入門



私たちの身近には、スズメ・ツバメなど、いろいろな野鳥が生活しています。皆さんはそうした野鳥の生活について、どんなことを知っているでしょうか。

夏休みの博物館では、クイズに答えながら、野鳥を知る「野鳥入門展」を開きます。ぜひ、遊びに来て下さい。

それではさっそくクイズを一つ……。上の写真の鳥は、いったい何をしているのでしょうか？

これはアオアシシギという種類で、相模川河口の干潟で撮影された写真です。変わった

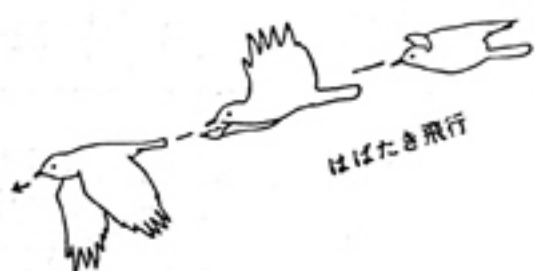
姿勢ですが、実は浅瀬によってきた魚を追いかけているところなのです。くちばしを半開きにして、たったたと、かけ足で追っていきます。こんなことで、すばやい魚が取れるものかと思いますが、見ているとかなり能率的に小さなボラなどをつかまえます。ちょっと注意していると、こんな面白いシーンも見ることができるのです。

会場では、ほかにもいろいろな生態写真、剥製などの標本、バードカービング、そしてクイズがあなたを待っています。解説書も発行する予定です。お楽しみに！



Q1. さがそう! 林の鳥

クイズをといて、鳥博士になろう！



● 夏休み特別展 " 野鳥入門 "

● 7月20日～8月30日



夏休み特別展 " 野鳥入門 " が始まりました。小鳥の声に迎えられて、毎日多勢のお友達がみえます。夏休みの自由研究はこれでいこうと決めたグループもあって、熱心にノートをとっていました。この特別展は、見にきた方達にいろんな問題を出しています。全部で7問くらいあります。ウワッなんて驚かないでくださいね。スズメの体重は何グラム？とか、鳥の指は何本？とか、この足跡はだあれとか、小鳥は1人でねるのかな、おしっこするのかとか、思わず笑ってしまうよう



翼を動かす筋肉のつく竜骨突起

カラスの足跡を読む

のこのこ歩き

飛び立ち



ビンのふたに興味を示す

深い足跡を残して着地

な、とっても楽しいものばかりです。更によいことは、問題に挑戦しているうちに、野鳥についての知識が一杯になるから、あなたは鳥博士になっているかも知れない！

この地球には、私達人間だけでなく、鳥もけものもお魚たちも住んでいます。カブト虫や蝶やトンボも住んでいます。草も木も枝を伸ばし葉を茂らせ花を咲かせて、やはり一緒に住んです。その下の地面をはう小さいアリンコだって、イソップ塒では立派な主役をつとめました。これらゼー

んぶを大きな目で考えると、地球という家に住む " 地球家族 " だと思います。お互いを知り、支えあい助けあって行きたいですね。例えば空を飛ぶ小鳥を知らなかったら、私達は飛行機を考え出せなかったかも知れないし、船だってそのヒントは、お魚に学んだのかも知れません。 " ソロモンの指輪 " (ローレンツ著早川書房) を読むと、鳥たちの、私たちと同じような暮し方や、小さな胸のうちまで知ることが出来ます。1974年、カモメのジョナサンは、より速くより美しく飛びたいと

願って、毎日練習に励みました。相模川のカモメの仲間にも、ジョナサンみたいなのが居るかも知れないと思えば、 " やあ元気かい " と手を振ってあげたくありませんか。野の鳥を知るチャンスです。パネルが84枚、はく製が124箇に加えて、30箇の木彫りの鳥達も勢揃いしました。図入りでわかりやすくまとめた本も用意しました。

" 鳥の歌・鳥の声 " という講演会は、8月20日午後2時からです。聴きに來てください。

(和田)

特別展講演会 “鳥の歌・鳥の声” から

野鳥の声を聞いたとき

特別展“野鳥入門”にちなんだ講演会は、8月20日、100人を超える参加者を前に、北海道から鹿児島に至る野鳥たちの、明るく爽やかなさえずりを響かせて終了しました。蒲谷氏は少年のような目差しをお持ちの方。「年の3分の1は街にいたが、あとは山野で野鳥を追う」という暮らし振りの由。日本では只一人の、野鳥の声を録音家だそうです。これをお読みくださる皆さんには、録音テープをお聞かせするわけにはゆきませんので、「森の野鳥（由井正敏著）」の助けを借りて、庭先や林や森で野鳥の声を聞いたとき、手引きになるように書いてみたいと思います。

文中のカットも森の野鳥からの借用です。

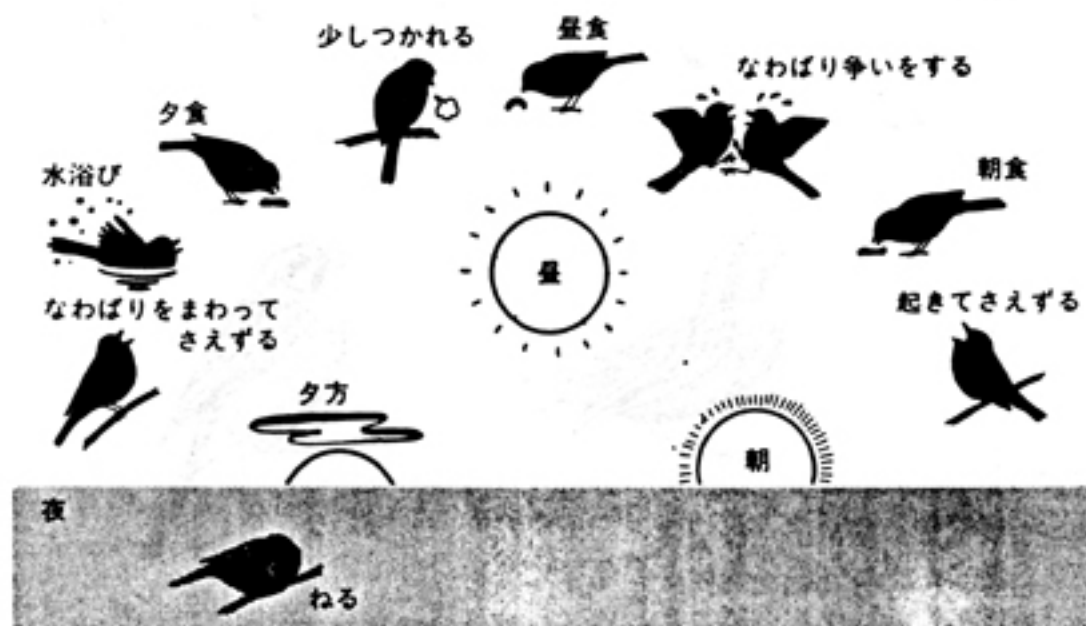


野鳥には2種類のきわだった鳴き方があります。“さえずり”と“地鳴き”です。

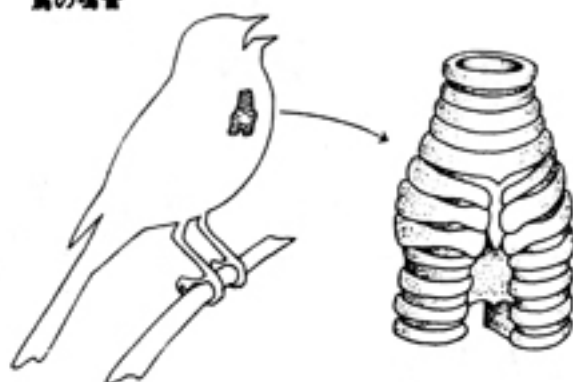
たとえばうぐいすのホーホケキョのような鳴き方はさえずりです。初夏の森から聞えてくるカッコウは、鳴き声がそのまま鳥の名になりました。キジバトの“デデポッポー”、キビタキの“ポッピーリービリリリッ”、シジュウカラの“ツビーツビー”。

私達だって唄いますが、どうも野鳥にはかないません。あの声はどこから出てくるのでしょうか。蒲谷氏によれば、鳥はほかの動物と違って、のど

野鳥の1日



鳥の鳴管



の所に鳴管（めいかん）という器官を持っているのだそうです。鳴くための特別の器官から、あんなさまざまな美しい声が出ているのです。

さて、このさえずりを知っていれば、なに鳥なのか判ります。但し聞く人の耳によって、少しずつ感じ方が違いますから、すぐには理解して貰えないかも知れませんが、なき声は、普通片仮名で表します。アクセント記号をつけておくのも良い方法です。“聞きなし”といって、野鳥のなき声を、誰れにもわかり易い言葉におきかえたものを紹介しましょう。

めじろ：長兵衛中兵衛、長中兵衛

はおじろ：一筆啓上つかまつり候

さっぱろラーメン、味噌ラーメン

せんだいむしうき：焼酎一杯グイー

三光鳥：月・日・星、ホイホイホイ

イカル：お菊24、 $4 \times 6 = 24$ （シロク24）

ツバメ：土喰って虫喰ってシブーイ

こじゅうけい：母アちゃんこわい

メボソムシクイ：ゼニトリ銭取り

フクロウ：ボロ着て奉公

これらは自然観察会の方達から伺いました。一筆啓上から札幌らーめんに移ったのは戦後派の耳でしょうか。焼酎一杯グイーなんて鳴かれたらお父さんだっと思わずニヤリとするでしょう。掛算してみたり怖いよーといってみたり、なかなかです。これなら覚えられますね。

“さえずり”は、おもにオスが行います。役割はメスを呼びよせることと、なわばりを張る時の宣言だと言われています。面白いことにご夫婦の場合、オスは余り大声でさえずりません。自分のなわ張りがきまっています、隣り近所と顔見知りだし、奥さんもあれば、大声でわめく必要はないわけです。上を向いて声を限りにわめきたてるのは新入りの独身者だそうです。

シジュウカラはエサ探しをしながら、お互いに「ビッビッ」とか「ジュクジュク」と鳴きかわします。ホーホケキョのうぐいすも春が終ると「チャッチャッ」とないたりします。これが地鳴きです。お互いのコミュニケーションー呼び合ったり警戒したり、エサをねだったりは、鳥によっては15種類もの違った声があるそうです。

口を開けば「お勉強なさい」という人、メシ・フロ・ネルしか言わない人、エッウソ、ホントーしか言えない人、この際です。野鳥たちに習ってレパートリーを広げてみてください。きっと良いことがありますよ。

さあ、次の休日にはズック靴をはいて、皆で山に行きましょう。小さな秋の気配の中で、ヒーヨ、ヒーヨと聞こえて来たら、それはヒヨ鳥が唄っているのです。（和田）

独身のホオジロのさえずり方▶



結婚している
ホオジロのさえずり方▶



（山岸1978）